

## 行政調査報告書「経済福祉常任委員会」

平成 25 年 7 月 16 日（火）～18 日（木）

### ■北海道滝川市「生ごみ処理バイオガス化について」

一般廃棄物広域処理施設（リサイクリーン）は、総事業費約 33 億円で建設され、平成 15 年 4 月から供用開始され、滝川市を含む 3 市 2 町で構成された中空知衛生施設組合が運営している。施設は、生ごみのメタン発酵施設、資源・粗大・不燃ごみ等のリサイクル施設、可燃ごみの中継施設からなる。メタン発酵施設の生ごみの処理能力は、55 t / 日であり、生ごみをメタン発酵させ、バイオガス発電とガスボイラーを利用し、発酵残渣物は脱水・乾燥して堆肥化しており、平成 24 年度の生ごみの資源化率は、約 83% にもなる。



ごみの資源化の取り組みとして、リサイクリーンのような施設の建設は魅力的であるが、費用面からすれば、本市で実施している各家庭で生ごみ処理を推進する、生ごみ処理機器購入補助金制度が望ましいと思われた。

### ■北海道釧路市「自立支援プログラムの取り組みについて」



釧路市は、かつては、漁業と炭鉱業が盛んで隆盛していたが、平成 14 年の太平洋炭鉱の閉鎖、漁場の規制、またリーマンショックの影響により、生活保護受給者が急増した。

釧路市の自立支援プログラムでは、外郭福祉団体や N P O 等で新しい公共の場を活用して、有償、無償のボランティアやインターンシップ等を行う中間的就労の場を提供している。中間的就労の場には、生活保護受給者の性質や希望にあったさまざまな体験プログラムがあり、社会参加と就労意欲の形成を促すことに成功しており、実際の就労につながっている。

本市においては、求人倍率や生活保護受給者の性質等の背景が異なっているが、釧路市の取り組みを参考にしていきたい。

### ■北海道千歳市「千歳市子ども通園センターについて」

市が直営で運用している当センターでは、障害児相談支援事業、子ども発達相談事業等が連携しており、発達に障害のある就学前の子どもに早期に必要な療育を行うことで、豊かな発達を促している。

また、通所開始時、通園者全員に、成長と支援記録をしていくイエローファイルを作成し、保護者と幼稚園・保育園などとの情報共有や就学以降の学校への引継ぎ、転出時にも活用できるようになっている。



本市としても、今後発達支援施設の統合を行なっていくが、千歳市の事例を参考に、保護者や子どもたちの視点に立った、利用しやすい施設としていきたい。